

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-303230

(P2007-303230A)

(43) 公開日 平成19年11月22日(2007.11.22)

(51) Int. Cl.

E 0 5 B 65/06 (2006.01)

F I

E O 5 B 65/06

Z

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2006-134954 (P2006-134954)

(22) 出願日 平成18年5月15日 (2006.5.15)

(71) 出願人 501176059

株式会社ガードロック

大阪府吹田市千里山西4-34-10-8

03

(74) 代理人 100102211

弁理士 森 治

(72) 発明者 南 完治

大阪府吹田市千里山西4-34-10-8

03 株式会社ガードロック内

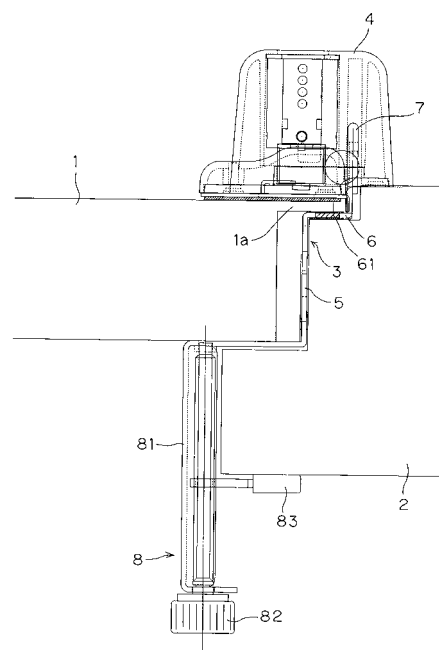
(54) 【発明の名称】 防犯錠

(57) 【要約】

【課題】 様々な厚みのかぶせ式扉に容易に取り付けることができる防犯錠を提供すること。

【解決手段】 室内側から扉1と扉枠2の間に延設された首部5と、この首部5の先端から扉1のかぶせ部1aと並行するように延設されたオフセット部6と、このオフセット部6の先端から扉1の開き方向に突設された保持片本体7とにより施錠部材保持片3を構成するとともに、首部5を伸縮可能に構成する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

かぶせ式扉の扉枠側に、扉の開き方向に突出する施錠部材保持片を取り付け、該施錠部材保持片に施錠部材を装着し、該施錠部材を扉に当接させることにより施錠を行う防犯錠において、施錠部材保持片が、室内側から扉と扉枠の間に延設された首部と、該首部の先端から扉のかぶせ部と並行するように延設されたオフセット部と、該オフセット部の先端から扉の開き方向に突設された保持片本体とを備え、前記首部を伸縮可能に構成したことを特徴とする防犯錠。

【請求項 2】

首部を、内向きの掛止突部を備えた外片と、該外片の内側に摺動可能に配設され、外片の掛止突部に当接することにより摺動を制限する外向きの掛止突部を備えた内片と、外片を内片と共に被覆するカバーとで構成したことを特徴とする請求項 1 記載の防犯錠。 10

【請求項 3】

オフセット部に磁石を配設したことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の防犯錠。

【請求項 4】

保持片本体が貫通するスリットを設けた当て板と、該当て板の外側から保持片本体に形成した透孔に掛ける汎用の錠とによって施錠するようにするとともに、前記当て板を、錠の本体の位置まで下方に延設するようにしたことを特徴とする請求項 1、2 又は 3 記載の防犯錠。

【発明の詳細な説明】 20

【技術分野】

【0001】

本発明は、例えば、マンション等の開き扉に後付けの補助錠として使用する防犯錠に関し、特に、様々な厚みのかぶせ式扉に容易に取り付けることができる防犯錠に関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、ピッキングによる盗難対策として、マンション等の開き扉に後付けの防犯錠が設置される機会が多くなっている。

この防犯錠としては、例えば、特許文献 1 に開示されるように、開き扉の扉枠側に、開き扉の開き方向に突出する施錠部材保持片を取り付け、この施錠部材保持片に施錠部材を装着し、この施錠部材を開き扉に外側から当接させることにより施錠を行う防犯錠が知られている。 30

【0003】

ところで、開き扉には、扉と扉の縦枠間の隙間を覆うかぶせ部（かぶせ板）を備えた扉（本明細書において、「かぶせ式扉」という。）がある。

このかぶせ式扉は、縦枠との隙間を室外側から覆うように、扉の先端にかぶせ部が突設されているため、このかぶせ部を避けるために、施錠部材保持片をオフセットする必要がある。

しかしながら、上記かぶせ式扉においても扉の厚みは様々であり、例えば、施錠部材保持片をクランプ等により扉枠の一部に固定する防犯錠の場合は、オフセット部が扉枠と干渉したり扉枠から離間して突出したりするため、装着が困難である等の問題を有している。 40

【特許文献 1】特開平 9-100665 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は、上記従来の防犯錠が有する問題点に鑑み、様々な厚みのかぶせ式扉に容易に取り付けることができる防犯錠を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】 50

【0005】

上記目的を達成するため、本発明の防犯錠は、かぶせ式扉の扉枠側に、扉の開き方向に突出する施錠部材保持片を取り付け、該施錠部材保持片に施錠部材を装着し、該施錠部材を扉に当接させることにより施錠を行う防犯錠において、施錠部材保持片が、室内側から扉と扉枠の間に延設された首部と、該首部の先端から扉のかぶせ部と並行するように延設されたオフセット部と、該オフセット部の先端から扉の開き方向に突設された保持片本体とを備え、前記首部を伸縮可能に設けたことを特徴とする

【0006】

この場合において、首部を、内向きの掛止突部を備えた外片と、該外片の内側に摺動可能に配設され、外片の掛止突部に当接することにより摺動を制限する外向きの掛止突部を備えた内片と、外片を内片と共に被覆するカバーとで構成することができる。

【0007】

また、オフセット部に磁石を配設することができる。

【0008】

また、保持片本体が貫通するスリットを設けた当て板と、該当て板の外側から保持片本体に形成した透孔に掛ける汎用の錠とによって施錠するようにするとともに、前記当て板を、錠の本体の位置まで下方に延設するようにすることができる。

【発明の効果】

【0009】

本発明の防犯錠によれば、施錠部材保持片が、室内側から扉と扉枠の間に延設された首部と、該首部の先端から扉のかぶせ部と並行するように延設されたオフセット部と、該オフセット部の先端から扉の開き方向に突設された保持片本体とを備え、前記首部を伸縮可能に構成することから、かぶせ式扉の厚みが様々であっても、首部を伸縮させることによってこれに対応することができ、これにより、オフセット部が扉枠と干渉したり扉枠から離間して突出したりすることなく、施錠部材保持片をクランプ等により扉枠の一部に容易に取り付けることができる。

【0010】

また、首部を、内向きの掛止突部を備えた外片と、該外片の内側に摺動可能に配設され、外片の掛止突部に当接することにより摺動を制限する外向きの掛止突部を備えた内片と、外片を内片と共に被覆するカバーとで構成することにより、首部の強度を強固にすることができる。

【0011】

また、オフセット部に磁石を配設することにより、オフセット部を扉枠に磁着し、伸縮可能に構成された施錠部材保持片を体裁良く安定した状態で固定することができる。

【0012】

また、保持片本体が貫通するスリットを設けた当て板と、該当て板の外側から保持片本体に形成した透孔に掛ける汎用の錠とによって施錠するようにするとともに、前記当て板を、錠の本体の位置まで下方に延設するようにすることにより、錠が扉にぶつかることによる扉の傷付きを防止することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、本発明の防犯錠の実施の形態を、図面に基づいて説明する。

【実施例1】

【0014】

図1～図6に、本発明の防犯錠の一実施例を示す。

この防犯錠は、かぶせ式扉1の扉枠2側に、扉1の開き方向に突出する施錠部材保持片3を取り付け、該施錠部材保持片3に施錠部材4を装着し、該施錠部材4を扉1に当接させることにより施錠を行うようにしている。

そして、この防犯錠は、室内側から扉1と扉枠2の間に延設された首部5と、該首部5の先端から扉1のかぶせ部1aと並行するように延設されたオフセット部6と、該オフセ

10

20

30

40

50

ット部 6 の先端から扉 1 の開き方向に突設された保持片本体 7 とにより施錠部材保持片 3 を構成するとともに、前記首部 5 を伸縮可能に構成している。

【0015】

施錠部材保持片 3 は、図 1 ～図 4 に示すように、首部 5 の基部にクランプホルダ 8 を一体に設け、該クランプホルダ 8 を扉枠 2 の室内側の棧に挟着することにより取り付けられている。

クランプホルダ 8 は、ホルダ本体 8 1 に回動可能に枢支したねじボルト 8 2 に把持片 8 3 を螺合させており、これにより、ねじボルト 8 2 を軸方向に出没させることなく把持片 8 3 のみを移動させ、クランプホルダ 8 を扉枠 2 に固定できるようにしている。

このように、施錠部材保持片 3 をクランプホルダ 8 により固定することにより、施錠部材保持片 3 を扉枠 2 の先端面にビス止めする方法等に比較して、金属製の扉枠 2 にも容易に取り付けることができる。また、賃貸住宅等でビス止め方法を用いることができない場合にも適用することができる。

【0016】

施錠部材保持片 3 の首部 5 は、首部 5 を伸縮可能にするために、例えば、図 3 ～図 6 に示すように、クランプホルダ 8 側に設けられ、内向きの掛止突部 5 1 を備えたチャンネル形状の外片 5 2 と、該外片 5 2 の内側に摺動可能に配設され、外片 5 2 の掛止突部 5 1 に当接することにより摺動を制限する外向きの掛止突部 5 3 を備えた内片 5 4 と、外片 5 2 を内片 5 4 と共に被覆する断面コ字状又は複数の板体で形成したカバー 5 5 とにより構成されている。

この場合、外片 5 2 とカバー 5 5 とは、スポット溶接等を用いて一体化するようにし、これにより、首部 5 の強度を一層強固にすることができる。

また、首部 5 を伸縮可能にするための機構は、本実施例において採用している機構に限定されず、例えば、外片 5 2 と内片 5 4 の位置を逆に配置したり、外片 5 2 及び内片 5 4 に掛止突部 5 1、5 3 をそれぞれ 1 個ずつ備えるようにする等、伸縮量を規制可能な種々の伸縮機構を用いることができる。

内片 5 4 の先端側には、図 6 に示すように、オフセット部 6 と保持片本体 7 とが一体に設けられている。

なお、この内片 5 4 の摺動範囲、すなわち首部 5 の伸縮範囲は、図 2 に示すように、施錠部材保持片 3 を薄めの扉 1 に取り付けただけの場合でも、施錠部材 4 が扉 1 に当接して施錠状態が確保されるように設定されている。

【0017】

オフセット部 6 は、首部 5 の先端から扉のかぶせ部 1 a の先端側に並行するように延設されており、扉枠 2 の外側に磁着する磁石 6 1 が埋設されている。

これにより、オフセット部 6 を扉枠 2 に磁着し、伸縮可能に構成された施錠部材保持片 3 を体裁良く安定した状態で固定するようにしている。

この場合、かぶせ部 1 a の幅方向の長さの異なる扉 1 に対応できるように、オフセット部 6 に、首部 5 を伸縮可能にするための機構と同様の機構を採用して、オフセット部 6 を伸縮可能に構成することもできる。

【0018】

保持片本体 7 には、施錠部材 4 が係止する施錠用係止部としての透孔 7 1 が形成されている。

施錠部材 4 は、図 6 (d) に示すように、直方体状の本体 4 0 に、錠機構として、シリンダ錠 4 1 と、シリンダ錠 4 1 と反対側に形成され、施錠部材保持片 3 の保持片本体 7 が挿入されるスリット状の穴 4 3 とを有し、シリンダ錠 4 1 に鍵 4 2 を差し込んで回すことにより、スリット状の穴 4 3 の奥に出没可能に設けられたラッチボール 4 4 を突出状態で固定するように構成されている。

そして、スリット状の穴 4 3 に挿入された保持片本体 7 の透孔 7 1 を、このラッチボール 4 4 で係止することにより、施錠部材保持片 3 に施錠できるように構成されている。

【0019】

10

20

30

40

50

一方、保持片本体 7 は、上記のような専用の施錠部材 4 の他にも、例えば、図 7～図 8 に示すように、保持片本体 7 が貫通するスリット 9 1 を設けた当て板 9 と、該当て板 9 の外側から保持片本体 7 の透孔 7 1 に掛ける汎用の錠 1 0 とによっても施錠することができる。

当て板 9 は、扉 1 と錠 1 0 の間に配設される緩衝部材としての機能もなし、錠 1 0 の本体の位置まで下に長く延設するとともに、背面にゴムシート 9 2 を貼付することにより、錠 1 0 が扉 1 にぶつかることによる扉 1 の傷付きを防止している。

錠 1 0 には、ダイヤル式やキーを用いた南京錠等を適宜選択することができ、扉 1 を閉め、当て板 9 を保持片本体 7 に装着した後、保持片本体 7 の透孔 7 1 に錠 1 0 のアームを掛けることにより施錠する。

10

【0020】

かくして、本実施例の防犯錠は、施錠部材保持片 3 が、室内側から扉 1 と扉枠 2 の間に延設された首部 5 と、該首部 5 の先端から扉 1 のかぶせ部 1 a と並行するように延設されたオフセット部 6 と、該オフセット部 6 の先端から扉 1 の開き方向に突設された保持片本体 7 とを備え、前記首部 5 を伸縮可能に構成することから、かぶせ式扉 1 の厚みが様々であっても、首部 5 を伸縮させることによってこれに対応することができ、これにより、オフセット部 6 が扉枠 2 と干渉したり扉枠 2 から離間して突出したりすることなく、施錠部材保持片 3 をクランプ等により扉枠 2 の一部に容易に取り付けることができる。

【0021】

また、首部 5 を、内向きの掛止突部 5 1 を備えた外片 5 2 と、該外片 5 2 の内側に摺動可能に配設され、外片 5 2 の掛止突部 5 1 に当接することにより摺動を制限する外向きの掛止突部 5 3 を備えた内片 5 4 と、外片 5 2 を内片 5 4 と共に被覆するカバー 5 5 とで構成することにより、首部 5 の強度を強固にすることができる。

20

【0022】

また、オフセット部 6 に磁石 6 1 を配設することにより、オフセット部 6 を扉枠 2 に磁着し、伸縮可能に構成された施錠部材保持片 3 を体裁良く安定した状態で固定することができる。

【0023】

また、保持片本体 7 が貫通するスリット 9 1 を設けた当て板 9 と、該当て板 9 の外側から保持片本体 7 に形成した透孔 7 1 に掛ける汎用の錠 1 0 とによっても施錠するようにするとともに、前記当て板 9 を、錠 1 0 の本体の位置まで下方に延設するようにすることにより、錠 1 0 が扉 1 にぶつかることによる扉 1 の傷付きを防止することができる。

30

【0024】

以上、本発明の防犯錠について、その実施例に基づいて説明したが、本発明は上記実施例に記載した構成に限定されるものではなく、実施例に記載した構成を適宜組み合わせるなど、その趣旨を逸脱しない範囲において適宜その構成を変更することができる。

【産業上の利用可能性】

【0025】

本発明の防犯錠は、かぶせ式扉の厚みが様々であっても、施錠部材保持片の一部を伸縮させることにより、オフセット部が扉枠と干渉したり扉枠から離間して突出したりすることなく施錠部材保持片を容易に取り付けることができるという特性を有していることから、特に、ビス止めがしにくい金属製のかぶせ式扉や種々の制約によってビス止め方法を適用できないかぶせ式扉に好適に用いることができる。

40

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】本発明の防犯錠の一実施例を厚めのかぶせ式扉に取り付けた状態を示す断面図である。

【図 2】同薄めのかぶせ式扉に取り付けた状態を示す断面図である。平面図である。

【図 3】図 1 の状態の施錠部材保持片を示し、(a) は平面透視図、(b) は正面透視図、(c) は左側面透視図である。

50

【図 4】図 2 の状態の施錠部材保持片を示し、(a) は平面透視図、(b) は正面透視図である。

【図 5】首部の外片を示し、(a) は平面図、(b) は正面図、(c) は底面図、(d) は左側面図、(e) は右側面図である。

【図 6】首部の内片と施錠部材を示し、(a) は内片の平面図、(b) は同正面図、(c) は同左側面図、(d) は施錠部材の分解斜視図である。

【図 7】他の施錠部材を装着した実施例を示し、(a) は当て板を保持片本体に装着した状態を示す正面図、(b) は同側面図、(c) はさらに汎用の錠を装着した状態を示す正面図、(d) は同側面図である。

【図 8】当て板を示し、(a) はその正面図、(b) は同側面図、(c) は同背面図、(d) は同平面図、(e) はゴムシートの正面図、(f) は同側面図である。 10

【符号の説明】

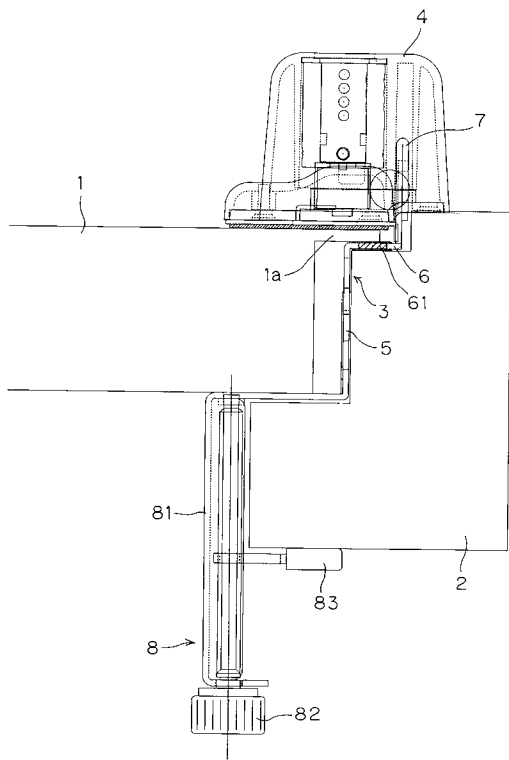
【0027】

- 1 かぶせ式扉
- 1 a かぶせ部
- 2 扉枠
- 3 施錠部材保持片
- 4 施錠部材
- 5 首部
- 5 1 掛止突部
- 5 2 外片
- 5 3 掛止突部
- 5 4 内片
- 5 5 カバー
- 6 オフセット部
- 6 1 磁石
- 7 保持片本体
- 7 1 透孔
- 8 クランプホルダ
- 9 当て板
- 9 1 スリット
- 9 2 ゴムシート
- 10 錠

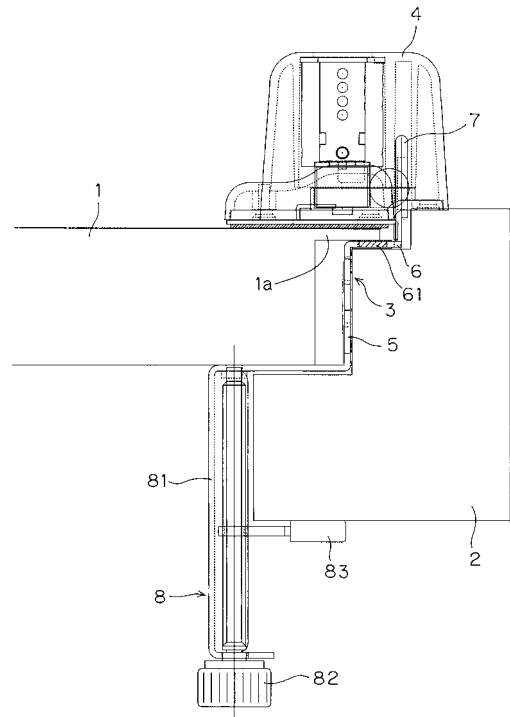
20

30

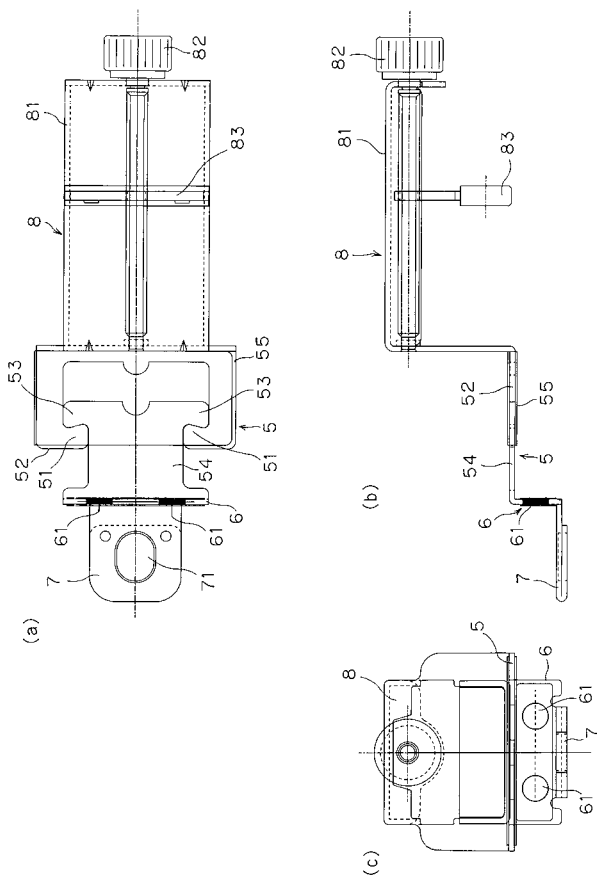
【図 1】



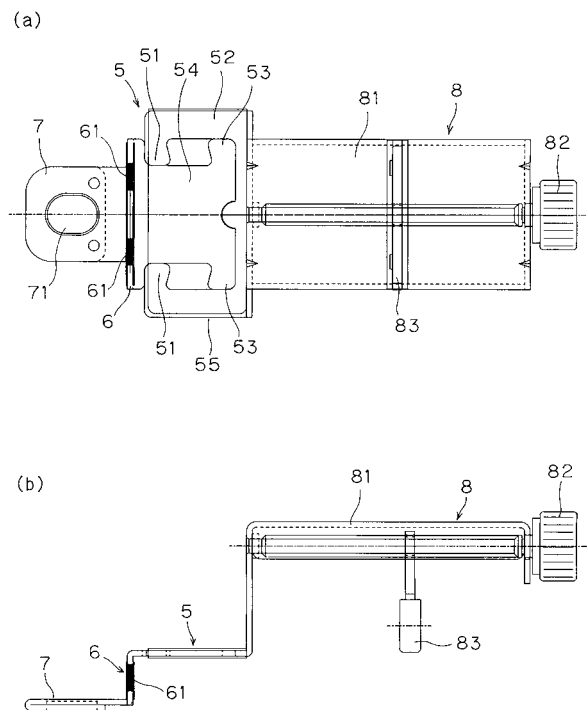
【図 2】



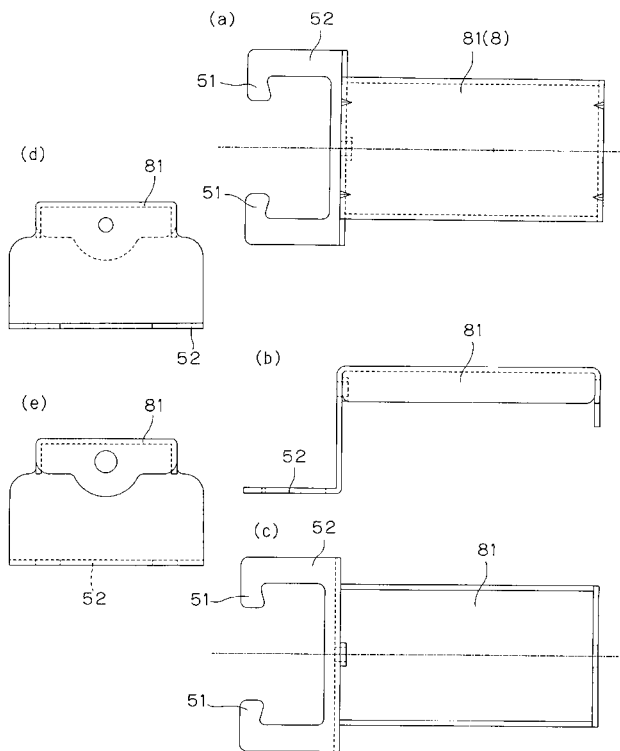
【図 3】



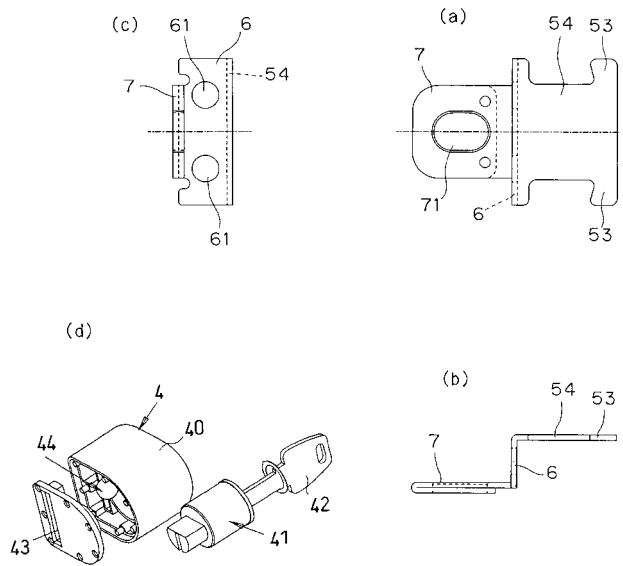
【図 4】



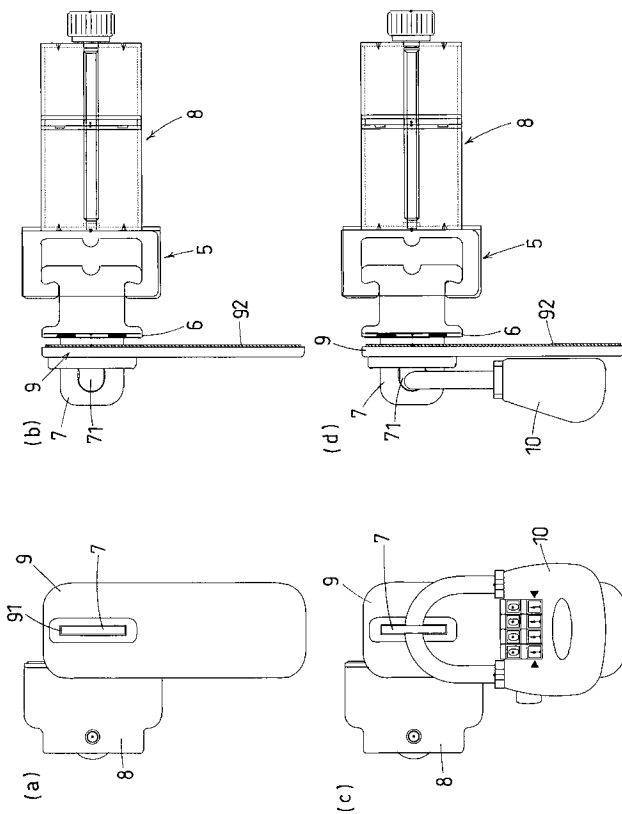
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

